

軍

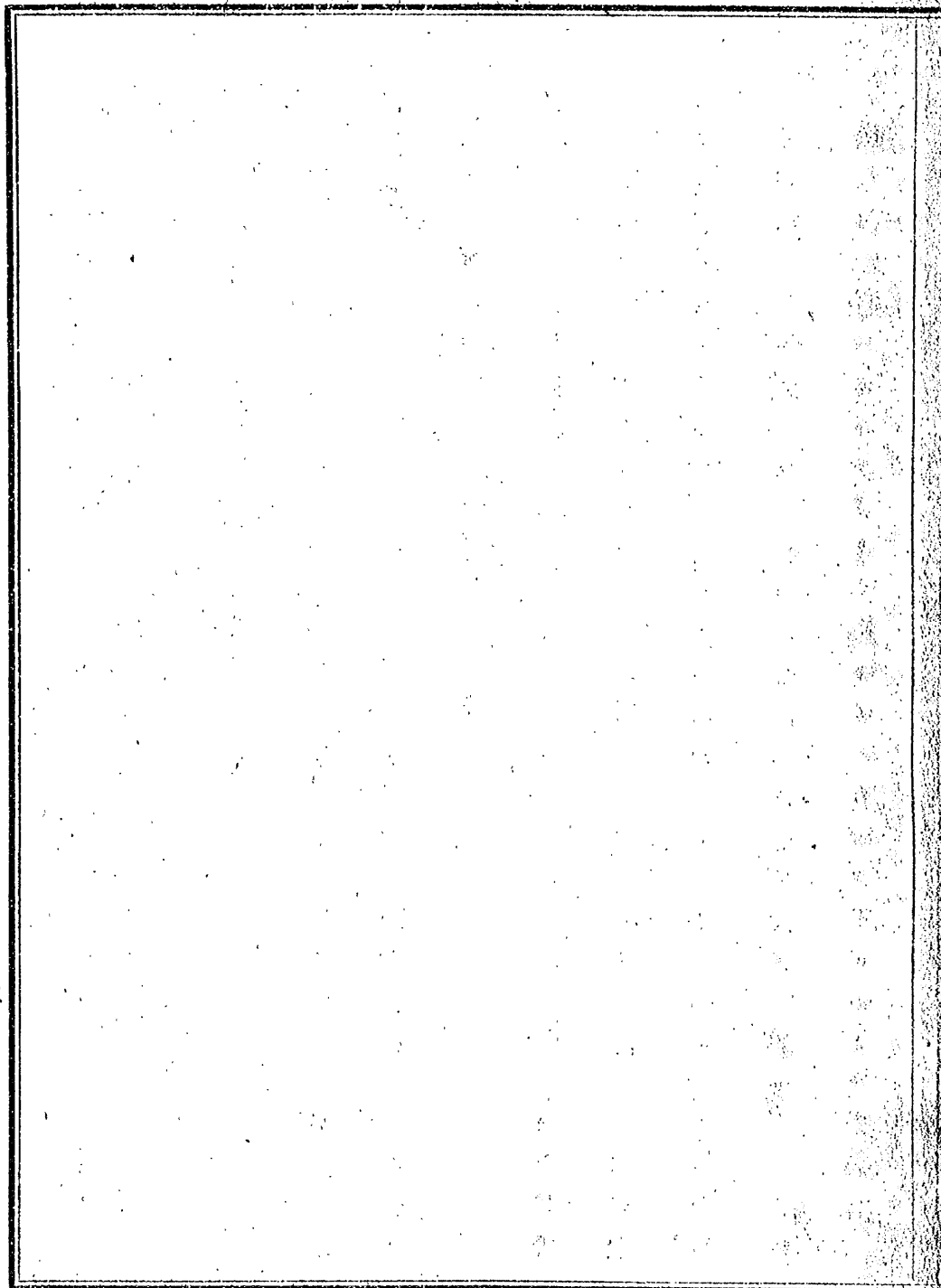
三

宣統十六年四月十一日



00-346

0735



0736

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

一、日米交渉ハ本年春頃ヨリ開始セラレタル處四月中旬米側ハ交渉ノ
基礎トシテ左記七項ヨリ成ル一ノ非公式試案ヲ提示セリ

(一) 日米兩國ノ擁護スル國際及國家觀念

日米兩國ハ固有ノ傳統ニ基キ國家觀念及社會的秩序ノ基礎タル
道義的原則ヲ保持シ之ニ反スル外來思想ノ跳躍ヲ許容セス

(二) 歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度

日本側ハ三國同盟力防禦的性質ノモノニテ三國條約ニ基キ軍事
的援助義務ハ締約國ノ一カ親ニ歐洲戰爭ニ參入シ居ラサル國家
ニ依リ積極的ニ攻撃セラレタル場合ニノミ發動スル旨ヲ宣明シ
米側側ハ其歐洲戰爭ニ對スル態度ハ専ラ米國ノ利益及安全ヲ保
護スル考慮ニヨリテノミ決定セラルルモノナルコトヲ宣明ス

(四) 支那事變ニ對スル兩國政府關係

日本政府ニ於テ(一)支那ノ獨立(二)在支軍隊撤退(三)非併合(四)無賠償
(五)門戶開放(六)汪蔣合作(七)日本ヨリ大量移民ヲ支那ニ送ラサルコ
ト(八)滿洲國承認ノ各項條件ヲ受諾スルニ於テハ米國大統領ハ蔣
介石ニ對シ右ノ基礎ニ於テ日本ト和平ヲ交渉スヘキコトヲ要求
スヘク然ル上日本政府ハ右條ニ從ヒ善隣友好、共同防共、經濟
提携ノ趣旨ヲ以テ明確ナル對支和平條件ヲ提示シ日支直接交渉
ヲ開始ス

(五) 太平洋ニ於ケル海陸軍及商船隊關係

日米相互ニ他方ヲ脅威スル力如キ海陸軍ノ懸置移動ヲ行ハサル
コト、交渉成立ノ上ハ艦隊ノ交款訪問ヲ行フコト、日本ハ所有

0738

船舶ノ或部分ヲ主トシテ太平洋方面航ノ爲米國側ニ使用セシムルコト

(四)兩國間ノ通商及財政的協力

通商條約ヲ締結シ相互ニ必要物資ヲ交換スヘキコト並ニ米國ハ日本金借款ヲ與フヘキコト

(五)南西太平洋ニ於ケル兩國ノ經濟活動

日本側ニ於テ専ラ平和的行動ヲ旨トシ武力ヲ行使セサルコトヲ約シ其ノ代價トシテ米國ハ日本ノ必要トスル石油、「ゴム」等資源ノ獲得ニ協力スヘキコト

(六)太平洋ノ政治的安定ニ關スル兩國政府ノ方針

日本兩能力(1)極東及南西太平洋地域ノ領土ノ歐洲列國ヘノ移譲

0739

ヲ認メサルコト(但比島ノ獨立ヲ共同保障スルコト)ハ南國及南西
太平洋方面ヘノ日本移民ニ對シ差別待遇ヲ爲ササルコト
右ニ對スル我方回答ハ五月十一日行ハレタルカ右ハ米側提案ヲ相
當根本的ニ修正シタルモノニシテ特ニ三國條約義務ニ關シテハ「
軍事の援助義務ハ第三條ニ規定セラルル場合ニ發動セラル」ト修
正シ又支那事變ノ項ニ付テハ米國案ノ列舉事項ヲ削除シテ其代リ
ニ米國ハ「近衛三原則日支基本條約及日滿華共同宣言ノ原則ヲ了
承シ我善隣友好政策ニ倡導シテ將政權ニ對シ和平ヲ勸告スヘシ」
(別ニ懸念ニ聽從セサレハ援護政策ヲ中止スル旨ヲ申入レシム)
ト改メ尙第四項(海陸軍及商船隊)ハ益文削除第五項ノ金借款供
與ノ件モ削除セラレタリ

野村大使ハ五月十一日右修正案ヲ「ハル」長官ニ手交シ其後十數
 次ノ會談ヲ重ホタル結果六月二十一日米國政府ヨリ非公式試案ノ
 再度提示アリタルカ右ハ五月十一日附日本案トハ根本的ニ相違セ
 居ルノミナラス四月十六日附米國側原案ヨリモ幾タタノ點ニ於テ
 是轉シ居リタリ即チ(一)三國條約問題ニ關シテハ同條約ノ目的ヲ一
 體發ニ依ラサル歐戰ノ擴大防止ニ寄與セントスルニ在リ(米
 國力歐洲戰事ニ參戰スル際ハ米國ハ必ス獨逸ヨリ挑發ヲ受ケタリ
 ト主張スヘキニ付此場合日本ハ參戰義務ナキコトトナルヘク之カ
 米國ノ強ヒ所ナリ)ト修正スルト共ニ他方米國ノ立場ハ「防禦ト
 自衛ノ考慮」ニ依リテ其態度ヲ決スト改メ(自衛ノ觀念ヲ擴大セ
 ハ米國ハ容易ニ參戰セ得ルコトトナル)ラレタリ從ツテ右ハ四月

案ニ比シ米國參戰スルモ日本ハ中立スヘシトノ思想ヲ總ニ露骨ニ表
示シ居ル次第ナルカ尙同案ニハ我方ニ於テ到底受諾シ得サル交換
公文案附屬シ居レリ(二)支那問題ニ關シテハ米國政府ハ日本政府ヨ
リ日支和平條件カ近衛諸原則ト矛盾セサルコトヲ通報セラレタル
ヲ以テ米國大統領ハ蔣政府ニ和平交渉ニ入ルコトヲ懇懇スヘシト
云フ形ニ變更セラレ且日支間經濟協力ニ關シテハ三項ノ要盟(一)
優先的獨占的事業ト例ヘハ國策會社ト不可ナリ(二)第三國人ノ貿易
及旅行ノ制限ヲ撤廢スヘシ(三)貿易、通貨、爲替事項ニ付支那ニ先
益ナル統制權ヲ與フヘシ(四)附帶シ居リタリ(三)兩國通商ニ關シテモ
亦非常事態ノ存續中米國ノ必要トスル國防資源ノ輸出制限ヲ行ヒ
得ル旨ノ領事附加セラレタリ(四)南西太平洋ノ經濟的活動ニ付テハ

米案ハ之ヲ太平洋地域トシ且國際通商無差別原則ノ適用ヲ規定セ
リ(如太平洋ノ政治的安定ニ關シテハ日米兩國力領土の野心ヲ有セ
サルコトヲ規定シ事變問題ヲ削除シタリ(別ニ「オーラル、ステ
ートメント」添附アリタルモ後ニ米領ニ於テ撤回セリ)

右案ニ接シタル我政府ハ再三政府大本營連絡會議ヲ開催シ之ヲ檢
討セル結果七月十四日之ニ大修正ヲ加ヘ大體ニ於テ我方五月十一
日案ニ復歸セル對案ヲ決定シタルカ七月十六日側々改變起リタル
爲右對案ハ米國側ニ手交ノ機會ヲクシテ終リタリ即チ第二次近衛
内閣ハ四月十六日米國案ヲ受理シ五月十一日對案ヲ提出シ更ニ之
ニ對スル六月二十一日附米國案ヲ受理シ未回答ノ儘七月中旬ニ至
リ改變ニ變遷セルモノナリ

0743

(註) 尙前記交渉中ハ政府ハ必要ニ應シ交渉経過ノ概略ヲ或程度

獨伊政府ニ通報シ居リタリ

英日米會議ハ第二次近衛内閣崩壊ニヨリ一時停頓状態ニ陥リ第三近衛内閣成立後間モナク我軍ノ佛印進駐トナリ其結果日米關係ハ頓ニ惡化シ兩國相互ニ苛酷凍結ヲ行ヒ遂ニ事實上ノ經濟斷行ニ發展セリ

我方ハ局面打開ノタメ西方手ヲ儘ス所アリ佛印ヲ中心トスル同盟的解決案(我方ハ佛印ヲ基地トシテ隣接地域ニ行動ヲ起サス義舉ハ資產凍結ヲ解除ス)ヲ米側ニ提示シ、米側ヨリ佛印、泰中立化問題等ヲ提議セルコトアルモ結局何等妥結ニ至ラズ、八月二十八日近衛首相ハ「ロースベルト」大統領宛「メッセーヂ」ヲ發出

シ帝國政府ノ平和的意圖ヲ縷々開陳シ交渉促進ノ爲兩國政府首腦
ノ會合ヲ希望セリ右「メツセーダ」發出ヲ機軸トシ交渉再開ノ選
ヒニ至リタルカ彼我ノ意見容易ニ一致セス我方ハ先ツ兩國政府首
腦會合ニヨリ大局的融合ヲ試ミントスルニ對シ米側ハ重要事項特
ニ三國條約義務ノ解釋及履行問題、在支日本軍隊駐留問題及國際
通商上ニ於ケル無差別原則ニ關シ先以テ合意成立セル限り首腦者
會見ニ應スルヲ得ストノ態度ヲ軌勸ニ堅持シタリ

此間我方ハ一ノ局面打開案ヲ提示セルモ（九月六日）米側ノ受諾
スル所トナラス米側ハ依然六月案ヲ固執シタル爲我方ハ九月二十
五日ニ至リ右米國案ノ形式内容ヲ極ミ從來我方ノ主張シ來リタル
所ヲモ取入レタル案ヲ作製シテ米側ニ提出セリ右九月二十五日案ハ

0745

(一)「歐洲戰爭ニ對スル兩國政府ノ態度」ニ關シテハ兩國政府ハ世界平和ノ到來ヲ共同ノ目標トシテ其ノ速力ナル克復ニ協力スヘク且平和克復前ハ防護ト自衛トノ見地ヨリ行動スヘク又米國參戰ノ場合ニ於ケル三國條約義務ノ解釋及履行ハ專ラ自主的ニ行ハルヘシト變更ナシ

(二)「日支和平解決ニ對スル措置」ニ關シテハ兩國政府ハ支那事態ノ解決促進ノ爲努力スヘク米國政府ハ事態解決ニ對スル日本政府ノ努力ト誠意トヲ瞭解シ重慶政権ニ對シ和平恢復ノ爲速力ニ日本政府ト交渉ニスル様機渡シ得ヌヘク且日本ノ事態解決ニ關スル措置ニ支障ヲ與フルカ如キ一切ノ措置及行動ニ出テサルヘシ

日支經濟協力ハ平和的手段ニヨリ且通商無差別ノ原則及隣接國
間ノ自然的特殊緊密關係ノ原則ニ基キ行ハルヘク第三國ノ經濟
活動ハ公正ナル基礎ニ於テ行ハルル限り之ヲ排除セスト規定シ
（四）兩國間ノ通商ニ關シテハ兩國政府ハ正常ノ通商關係ヲ恢復
セシムルニ必要ナル措置ヲ遲滯ナク辦スルコトニ同意シ相互ニ
凍結措置ヲ直ニ撤廢シ且兩國ノ必要トスル物資ヲ相互ニ供給ス
ヘキコトヲ保障スヘシト規定シ

（五）太平洋地域ニ於ケル政治的安定ニ關シテハ兩國政府ハ同地
域安定ヲ脅威スルカ措置行動ニ出テサルヘク他方日本政府ハ佛
領印度支那ヲ基地トシテ近接地域ニ武力的進出ヲ行ハス事ニ佛
印ニ關係セザレバ日本軍艦ハ公正ナル平和確立スルニ資テハ

之ヲ撤去スヘク米國政府ハ南西太平洋地域ニ於ケル軍事的情勢
ヲ輕減シ且兩國政府ハ「タイ」及南領印度ノ主權及領土ヲ尊重
シ日本人ニ對スル無差別待遇ヲ條件トシテ比律賓ノ中立化ニ付
協定ヲ締結スルノ用意アリ、ト變更セルモノナリ
爾後兩國間ノ交渉ハ右六月二十一日米樂ト九月二十五日我方樂
トヲ中心ニ繼續サレタルモノニテ離隔ハ主トシテ三國條約問題
支那問題、通商問題等ニ存シタリ
然ルニ十月二日「ハル」長官ハ野村大使ニ對シ長文ノ口述書ヲ
手交シ米國政府ハ國際關係ノ基礎トシテ
一切ノ國家ノ領土保全及主權尊重
ニ他國ノ内政不干渉

通商上ノ機會均等

和平的手段ニ依ルノ他太平洋ニ於ケル現状ノ不變更

ノ四原則ヲ堅持來リタルカ日本側ノ主張ハ日本ノ平和的意圖ニ
關シ疑問ヲ抱カシムル點アリ又所謂防共駐兵ニハ異議アリ且無
差別待遇主義ハ支那ヲ含ム太平洋全域ニ適用スヘキモノニテ此
點ニ付キテモ日本ノ意圖ニ尙疑問アリ更ニ又三國條約問題ニ付
テモ日本ノ意圖ヲ更ニ明確ニサレ度ト述ヘテ益然歩ニ寄リテ示
サス特ニ支那鐵道兵問題ニ付テハ彼我ノ意見ニ甚シキ對立アリ交
渉ハ之力爲難關ニ達シ遂ニ交渉停頓ノ儘十月十六日近衛第三
次内閣ハ總辭職ノ旨ヲナキニ至レリ

三國條約成立後政府ハ公正ナル基礎ニ於ケル交渉繼續ノ方針ヲ決定

0749

憲法、外交ニ於ケル難點タリシ通商無差別原則、三國條約及支
那（及佛印）鐵兵ノ三國通ニ付キ帝國ノ爲シ得ル最大限ノ讓歩ヲ
行ヒ九月二十五日我方案ヲ修正シテ（一）通商無差別待遇問題ニ關シ
テハ「無差別原則カ全世界ニ適用サルモノナルニ於テハ支那ヲ
含ム太平洋全地域ニ於テモ本原則ノ行ハルルコトヲ承認ス」（二）三
國條約問題ニ關シテハ九月二十五日提案ヲ維持スルモ「米國側ニ
於テ自衛權ノ解釋ヲ濫リニ擴大スルノ意圖ナキコトヲ更ニ明瞭ニ
スルニ於テハ我方ニ於テモ同様ノ意圖ヲ表明スヘシ」（三）鐵兵問題
ニ關シテハ「支那事變ノ爲支那ニ派遣セラレタル日本軍隊ハ北支
及蒙疆ノ一帯地盤及海南島ニ關シテハ和平成立後所要期間駐屯スル
ヘク爾餘ノ軍隊ハ平和成立ト同時ニ日支間ニ別ニ遣メラルル所ニ

從ヒ撤兵ヲ開始シ治安確立ト共ニ二年以内ニ之ヲ完了スヘク又
「佛印ニ派遣セラレ居ル日本軍隊ハ支那事變ニシテ解決スルカ又
ハ公正ナル極東平和ノ確立スルニ於テハ直ニ之ヲ撤兵スヘシト
變更スルコトナリ右ハ十一月五日ノ御前會議ニ於テ決定ヲ經テ
ル上七日野村大使ヨリ「ハル」長官ニ提示セラレタリ野村大使ハ
訓令ニ基キ我カ提案カ最後の譲歩ニシテ情勢急遽セルニ鑑ミ右ヲ
以テ交渉ヲ急遽成立セシメタキ旨續々申入レタル所同長官ハ之カ
研究ヲ納スルト共ニ同長官一個ノ思ヒ付トシテ支那ノ最高權威者
ヲシテ日本ニ對シ友好關係恢復ヲ提議セシムルニ於テハ日本ハ如
何ニ答フルヤトノ質問アリ之ニ對シテハ政府ハ右ヲ日支直接交渉
路線ニ利用方訓令セリ我カ方ハ右ノ如ク同案ヲ以テ今次交渉ノ急

374

0751

速便結了期シ、華府及東京ニ於ケル並行の交渉ニ依リ米側力難斷ニ
走リ動キモスレハ非現實的態度ニ出ツル嫌アルニ鑑ミ、極力之カ費
費ニ努メ米側ツシテ大局的見地ヨリ現實ノ情勢ヲ速觀シ且情勢ノ
急進セルニ鑑ミ速ニ妥結ニ調達セシムル機努力ヲ試ミタリ
七日ノ會談ニ引續キ野村大使ハ十日「ローバベルト」大統領ト會
見シ前同「ハル」長官トノ會見ニ於ケルト同様日米交渉ハ開始以
來既ニ六ヶ月餘ヲ經過シ此間帝國ハ難キヲ感シテ幾多ノ譲歩ヲ爲
シタルカニ拘ラス米側ハ原案ヲ固執シテ譲ラス我國ニ於テハ米側
ノ直接利益ニアリヤヲ疑フモノアル處帝國ハ寧ろ平和ヲ顧念スル
見地ヨリ最大限ノ譲歩ヲ行ヘルモノナル次第ヲ説明セルカ大統領
ハ俄ニ賛否ヲ示サス單に帝國ハ戰爭擴大ヲ防止シ恒久平和確立ヲ

日米協定成立セハ日本ハ三國條約ヲ保持スルノ要ナカルヘク右ハ
消滅シ若クハ死文トナルコトヲ欲スル旨ヲ反復力説セリ即米國側
ハ十一月七日ノ我方提案ニ對シテハ通商上ノ無差別待遇問題ニ關
接回答セルノミニテ他ノ二點ニ付テハ米國側ハ之等ニ文書ニ對ス
ル我方ノ回答ヲ待チテ米國ノ意圖ヲ顯示スヘシトノ態度ニ出テ來
レリ

376

依テ我方ニ對シテハ野村大藏ニ訓令シ右ニ文書ニ付キ「一、全世界
ニ適用アルニ於テハ」ヲ條件トシタル、我方ニ於テハ同原則ヲ益世
界ニ一律ニ適用セラルルヲ希望シ右希望ノ實現ニ順應シテ支那ニ
於テモ右原則ノ行ハルルコトヲ承認ストノ意味合ニテ條件トセル
モノナルコト從テ現今本原則ヲ適用スルニ應ジテ廢ル事實ニ鑑ミ支

0753

斯ニ於テノミ先ツ之ヲ適用セントスルコトハ承認シ雖モ皆ヲ兼
ニ國等シニ共同宣言案ニ付テハ特ニ支那ニ於ケル政策ノ各項目文
部ノ預算ヲ無視シ殊ニ支那共同開發ノ提案ハ支那ノ國際管理ノ端
緒トナル儀アリテ受諾シ得サルヲ以テ衆議院ニ於テ之ヲ全額撥回
シ我力ノ十一月七日ノ提案ヲ基礎トシ交渉促進ヲ計ル機案例ニ準
入レシメタリ

尙我力ニ於テハ十一月五日野村大使ヲ接見セシムル爲特ニ衆議大
使ヲ派遣シ同大使ハ十七日以後ノ會議ニ參加セルカ同大使ハ十七
日大統領ニ對シ形勢ノ急遽ニ變ミ交渉急進ノ妥協ノ要アルコトヲ
説キ日米協賛力何人ノ利益トモナラサルコトヲ述ヘ更ニ帝國ノ平
和的意圖ヲ強調シ陸兵問題ニ關シテモ我力立場ヲ説明セル處大統領

希望スル旨ヲ述ヘタリ然ルニ「ハル」長官ハ十二日野村大使ニ對シ交渉題目ニ入ルニ先チ帝國ノ平和的意圖ニ付キ保障ヲ得タシトテ八月二十八日近衛内閣力其抽換スル平和的政策ニ關シ米國政府ニ對シ表明セル見解ヲ新内閣ニ於テ明確アリタキ旨ヲ照メタル文書ヲ手交シ更ニ別ニ蔣介石ヲシテ日本ニ對シ和平提議ヲ行ハシメ日支間ニ友好協力關係樹立ヲ目的トシ相互ニ密約ヲ交換スル案ヲ示曉セル文書（即チ七日會見ニ於ケル「ハル」長官ノ具體化セルモノ）ヲ手交シタリ右ニ對シテハ我方ハ米側力八月二十八日文書ニ付隨照ヲ希望スル事項ハ我提議中ニ全部包含セラレ居ルモノニテ現政府ニ於テ其應答ニ於テ之ヲ明確スル義務ナキコト又米側ノ日支和平調停案出ニハ異議ナキ旨ヲ回答セリ故ニテ十五日「ハ

0755

ル一長官ハ野村大使ニ文書ヲ以テ「日本側ニ於テハ無差別原則カ
全世界ニ適用サルルモノナルニ於テハ同原則カ太平洋並地域ニ適
用サルルコトヲ承認ス」トアルモ米國トシテハ其管轄權ノ及フ範
國外ノ國ニ對シ責任ヲ取り得ス通商障礙ヲ除去セントスル米國ノ
政策ニ鑑ミ日本側ニ於テ全世界ニ適用云々ノ條件ヲ撤回アリ度旨
申越シ同時ニ別ニ非公式試案ト註シテ「經濟政策ニ關スル日米共
同宣言案」ヲ提議シ來リ兩國協力シテ全世界ニ通商自由ノ恢復ヲ
圖ル事ト日米間通商條約ノ締結ニ依リ正常貿易關係ノ恢復ヲ圖ル
コト、支那ニ於テハ經濟、財政、通貨ニ關スル完全ナル統制權ヲ
實斷ニ返還スヘキコト、列國ノ協力ノ下ニ支那ノ經濟共同開發ヲ
行フコト等ヲ提案シ來ルト同時ニ三國條約ニ關シテハ口頭ヲ以テ

領ハ支那問題ノ困難ナルコトモ聞キ及ヒ居リ米國トシテハ右ニ對シ干涉モ轉旋モスル意思ナク單ニ紹介者トナラント欲スルノミナリト答ヘタルカ十八日「ハル」長官ハ所謂「ヒットラー」主義ノ脅威ヲ力説シ米國ノ平和政策ハ右ト兩立シ難ク從テ日本ヲ獨逸ト提携シ居ル限り日米關係調整ハ至難ナルニ付先ツ此ノ根本的困難ヲ除去スルニアラサレハ日米間ノ結合ヲ進行セシムルコト不可能ナリト述フル狀態ニテ結局米國側ニ於テハ何等妥協ノ色ナク問題ハ依然トシテ三國條約問題、通商無差別待遇問題及支那問題ニアリ双方論議ヲ盡セルモ米側ニ於テハ讓歩ノ色ヲ示サス依而我方ニ於テハ從來交渉シ來レル條文ノ宣傳的色彩ニ充テタルヲ簡單化シ且兩國間ニ意見容易ニ一致セサル通商無差別待遇問題及三國條約

問題ヲ一應我提案（十一月七日案）ヨリ除去シ又支那問題ハ主ト
シテ之ヲ日支直接交渉ニ移スノ趣旨ヲ以テ米國政府ニ於テハ單ニ
蔣介石援助ヲ差控ヘシムルコトトシ此見地ヨリ觀ニ五日ノ御前會
談ニ於テ決定ヲ見届リタルモ猶米側ヘノ提案ヲ差控ヘ繼リタル新
提案ヲ提出セリ御意ノ如シ

一 日米兩國政府ハ執レモ佛印以外ノ南東亞細亞及南太平洋地域ニ
武力的進出ヲ行ハサルコトヲ確約ス

二 日米兩國政府ハ南領印度ニ於テ其必要トスル物資ノ獲得力保障
セラルル様相互ニ協力スルモノトス

三 日米兩國政府ハ相互ニ通商關係ヲ發展凍結前ノ狀態ニ復歸スヘシ
米國政府ハ所製ノ石油ノ對日供給ヲ約ス

同米國政府ハ廣義兩國ノ和平ニ關スル盡力ニ支障ヲ與フルカ如キ
行動ニ出テサルヘシ

又日本國政府ハ日支間和平成立スルカ又ハ太平洋地域ニ於ケル公
正ナル平和確立スル上ハ現ニ佛領印度支那ニ派遣セラレ居ル日
本軍隊ヲ撤退スヘキ旨ヲ約ス

日本國政府ハ本了解成立セハ現ニ南部佛領印度支那ニ駐屯中ノ
日本軍ハ之ヲ北部佛領印度支那ニ移駐スルノ用意アルコトヲ開
明ス

有新提案ハ二十日野村大使ヨリ「ハル」長官ニ提出シ急遽妥結
希望スル爲之ヲ提案スルモノナル旨ヲ説明セタル所同長官ハ該
シタル意見ヲ總ヘス同案中米國力日支和平ノ努力ヲ助ケルカ如キ

行動ヲ楚措フトノ一項ニハ大ナル難色ヲ蒙リ日本カ三國條約トノ
關係ヲ明カニシ平和政策ヲ採ル旨強調スルニ非サレハ緩將行爲ヲ
打切ルコト困難ナリ大統領ノ日支調停平ノ紹介者タラントノ提言
モ日本ニ依ル平和政策ノ採用ヲ前提トスル旨ヲ答ヘ新提案ニ付テ
ハ研究ノ上更ニ相談スヘシト約シタリ右ハ米國側ニ於テ重慶ヲ援
助シ以テ帝國ヲ背後ヨリ牽制セントスル意圖ヲ暴露セルモノト認
メラレタルカ機方ハ米國側申出（十二日）ノ趣旨ニ基キ大統領ノ
「紹介」ニ依リ日支直接交渉開始セラルルニ於テハ和平ノ調停者
タル米國カ緩將行爲ヲ繼續シ平和成立ヲ妨碍スルハ著明トナルコ
トヲ指摘シ米側ノ反省ヲ要望スル所アリタリ隨以英五カ一長庫爾
直隸州州長等最重要人物會議ヲ行ヒタル際「ハル」長官ハ日米兩

艦力各々東亞及西半球ニ於テ平和的手段ニ依リ指導的立場ニ立ツ
ニ異議ナク又兩國力親善親睦ニ太平洋協定ヲ結ビ三國條約モ有協定
ノ實施ヲ訪ケサルコトヲ日本側ニ於テ附明セラレンコトヲ望ム旨
ヲ述ヘ依然トシテ三國條約問題ニ關スル米側從來ノ主張ヲ固執反
覆セリ即米側側ハ今次交渉ノ願力帝國ヲシテ三國條約ヨリ離脱
セシメントスルニ在ルコトヲ告白セルモノナリ

379

斯クテ七日以來華府及東京ニ於ケル鋭意折衝ノ結果米側側ハ漸次
其ノ真意ヲ明ニスルニ至リ彼我ノ見解力如何ナル點ニ於テ對立シ
居ルモノ亦從來ニ比シ明瞭トナリ此ノ意味ニ於テハ會談ハ相當ノ
進捗ヲ示シタル次第ナリ而シテ之ト共ニ交渉妥結ノ見込ハ愈々少
カキコト増取セラルルニ至レリ此間米國政府ハ英法蘭及重慶代表

0761

者ト協議スルトコロアリ二十二日「ハル」長官ハ右諸國ハ日本カ
平和的政策ヲ遂行スルコト明確トナラハ通商常態ノ復歸ヲ數日ニ
シテ實行シ得ルモ差當リ漸進的ニ之ヲ爲ス意圖ノ如ク又南部佛印
ヨリノ撤兵ノミニテハ南太平洋方面ノ急迫セル情勢ヲ緩和スルニ
足ラスト爲シ居レリト述ヘ夏ニ米國大統領ノ日支間橋渡しハ時機
未ダ熟セスト思考スル旨ヲ稱シタリ

然ルニ米國政府ハ其後モ英、蘭、法、重慶代表者ト協議ヲ重々層
タル模様ナリシカ二十六日「ハル」長官ハ兩大使ニ對シ我方提議
（十一月二十日）ニ付テハ慎重研究ヲ加ヘ關係國トモ協議セルカ
遺憾ナカラ同意シ難シト述ヘ米側六月案ト我九月案トノ簡節案ナ
リト稱シテ所謂四原則（但シ第四項ハ紛争防止ノ爲ノ國際協力及

關係遵守ニ變更セラレタリ）ノ確認ヲ求ムルト共ニ別ニ兩國政府ノ採ルヘキ措置トシテ

一、日米兩國政府ハ英、荷、蘭、支、露、泰ト共ニ多邊的不可侵條約ノ締結ニ努ム

二、日米兩國政府ハ日、米、英、支、露、荷、蘭政府トノ間ニ佛印領土主權ヲ尊重シ、佛印ノ領土主權力脅威サルル場合必要ナル措置ニ關シ暫時協議スヘキ協定ノ締結ニ努ム

右協定締約國ハ佛印ニ於ケル貿易及經濟關係ニ於テ特惠待遇ヲ排除シ平等ノ原則確保ニ努ム

三、日本政府ハ支那及佛印ヨリ一切ノ軍隊（陸、海、鐵及警察）ヲ撤收スヘシ

其兩國政府ハ重慶政府ヲ助ク如何ナル政權ヲモ軍事的、政治的、經濟的ニ支持ス

其兩國政府ハ支那ニ於ケル治外法權（租界及關稅關定權ニ基ク權利ヲ含ム）ヲ放棄シ他國ニモ同様ノ措置ヲ懸望スヘシ

其兩國政府ハ互惠的最惠國待遇及通商障礙低減ノ主義ニ基ク通商條約締結ヲ圖議スヘシ（並ニ自由品目ニ措置ス）

其兩國政府ハ相互ニ實業凍結令ヲ廢止ス

其兩國政府爲替安定ニ付協定シ兩國夫々半額宛資金ヲ供給ス

其兩國政府ハ第三國ト締結シ居ル如何ナル協定モ本協定ノ根本目的即太平洋地域ノ平和確保ニ矛盾スル力如ク解釋セラレサルコトニ付同意ス

以上諸原則ヲ他國ニモ適用スルコト

等ノ各項ヲ包含セル提案即チ從來我方ノ主張トハ雲泥ノ相違アリ
且四月以降八月ニ至ントスル彼我ノ交渉経緯ヲ全然無視セル案ヲ
提示シ我新提案（十一月二十日案）ハ一般的原则ト兩立セサルヲ
以テ審議シ難キニ依リ右米國案ヲ以テ今後交渉ノ基礎トシタト申
出テタリ

兩大使ハ右ヲ一覽シ其ノ不當ナルヲ指摘シタルカ同長官ハ原則ハ
必シモ急速實現ヲ豫想シ居ラス撤兵モ即時實現ヲ主張シ居ル次第
ニアラスト言ヒ南京政府ニ關シテハ支那統治ノ能力ナシト認ムル
旨ヲ述ヘ彼我ノ間ニ強硬應酬アリタリ

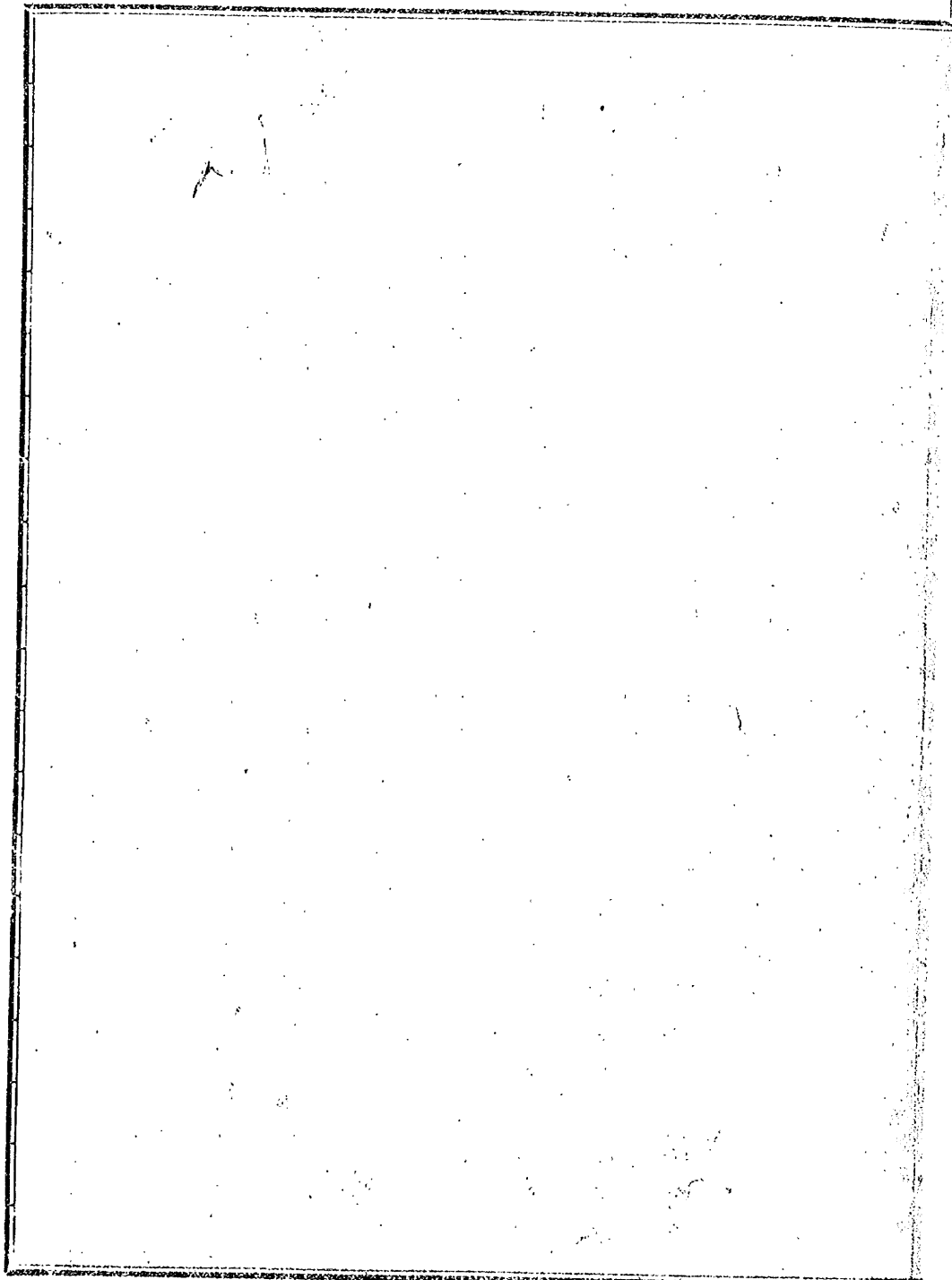
三十七日兩大使ハ更ニ「ローズベルト」大統領ト會見セル新聞大

0765

統領ハ今猶日米關係カ平和的妥結ニ勉スルコトヲ希望スト述ヘ乍
ラモ七月本交渉進行中日本軍ノ佛印南部進駐ヲ見タル爲冷水ヲ浴
セラルル懸念アルヤニ考ヘラルト實ヒ「モダス」ヴィヴエシダ止
ニ依リ局面打開ヲ計ルモ日米兩國ノ根本主義方針カ一致セザレハ
一時的解決モ結局無效ト思ハルト述ヘタリ其際同席セル「ハル」
長官ノ説明及別途情報ニ依レハ米國側ハ最近我方カ佛印方面兵力
増強ヲ行ヘル爲帝國ノ交渉ニ對スル態度ニ變態ヲ顯シタルモノノ
由ニテ又防共協定更新調印（二十五日）ヲ以テ我方カ米國ノ敵視
スル獨逸トノ盟約關係ヲ再確認シタルモノト解シ我方ニ對スル威
嚇ヲ減メタルモノト認メラル

議ルニ右集中ニハ通商問題（六、七、八各項）乃至支那法權繼續

(五項)等必スシモ事實的ニ不可ナラサル條項モ含マレ居ルモ國民政府否認(四項)支那佛印關係條項(二、三項)三國條約否認(九項)及多邊的不可侵條約(一項)等ハ何レモ我方トシテ斷斷同意シ得サルモノト認メラレタリ



日本標準規格 B4

0768

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>